

東京都説明資料

令和3年11月9日（火）
デジタルサービス局

A) ミッション

B) 課題認識

C) 目指す将来像

D) 行動指針の策定

本日、議論いただきたい論点

論点1 行動規範（価値観）について

- 共有すべき課題とは（都のデジタルサービスへの期待）

論点2 技術ガイドラインのテーマ策定等について

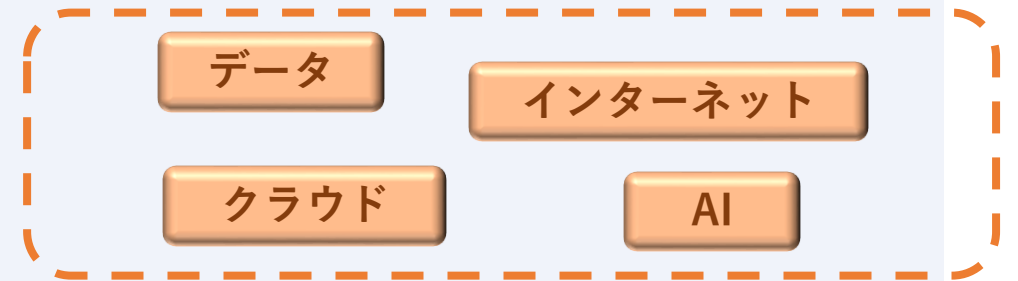
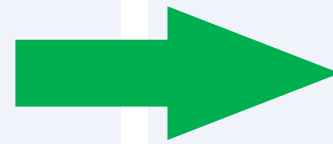
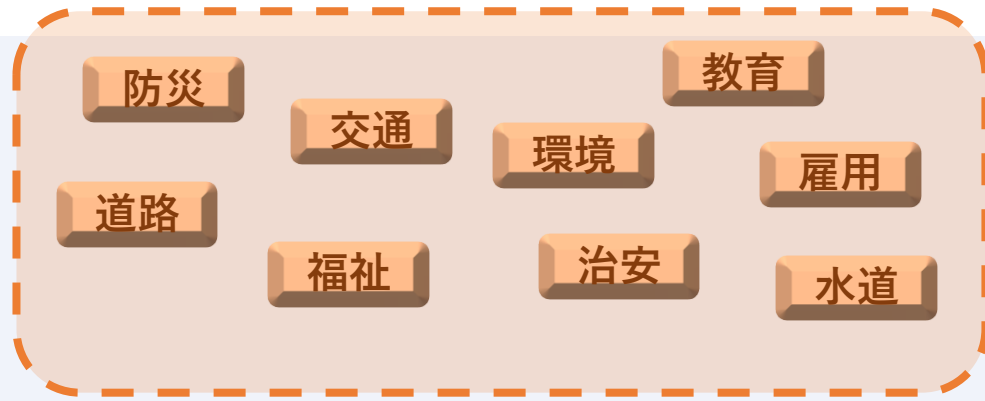
- 標準プロセスのとらえ方（アジャイル開発への対応）
- 優先すべき技術テーマの選定

- デジタルを活用したサービスの開発・提供を通じて、**都政の“QOS”を上げ、都民等の“QOL”アップに寄与**すること。

Old 東京

スマート東京

アナログ・ハード



江戸

デジタル

デジタルサービスで都民のQoL向上 3つのシティ実現

セーフシティ

ダイバーシティ

スマートシティ

防災

まちづくり

モビリティ

エネルギー

自然

ウェルネス

教育

働き方

産業



- カメラ、ドローンで情報収集
- AI危険自動検知



- 3Dデジタルマップ



- 自動運転
- MaaS



- 地産地消
- デマンドコントロール



- 水と緑
- 生物多様性



- 見守りロボット
- 病気早期発見
- 遠隔診療



- 個別最適化教育
- タブレット学習
- 遠隔授業



- テレワーク
- 単純業務AI化



- IoT、3Dプリンター
- 農林産業自動化



- 都庁デジタルトランスフォーメーション
- デジタルシフト
- オープンガバメント
- デジタル人材

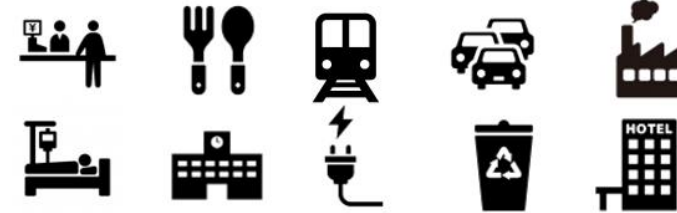
自然・気象



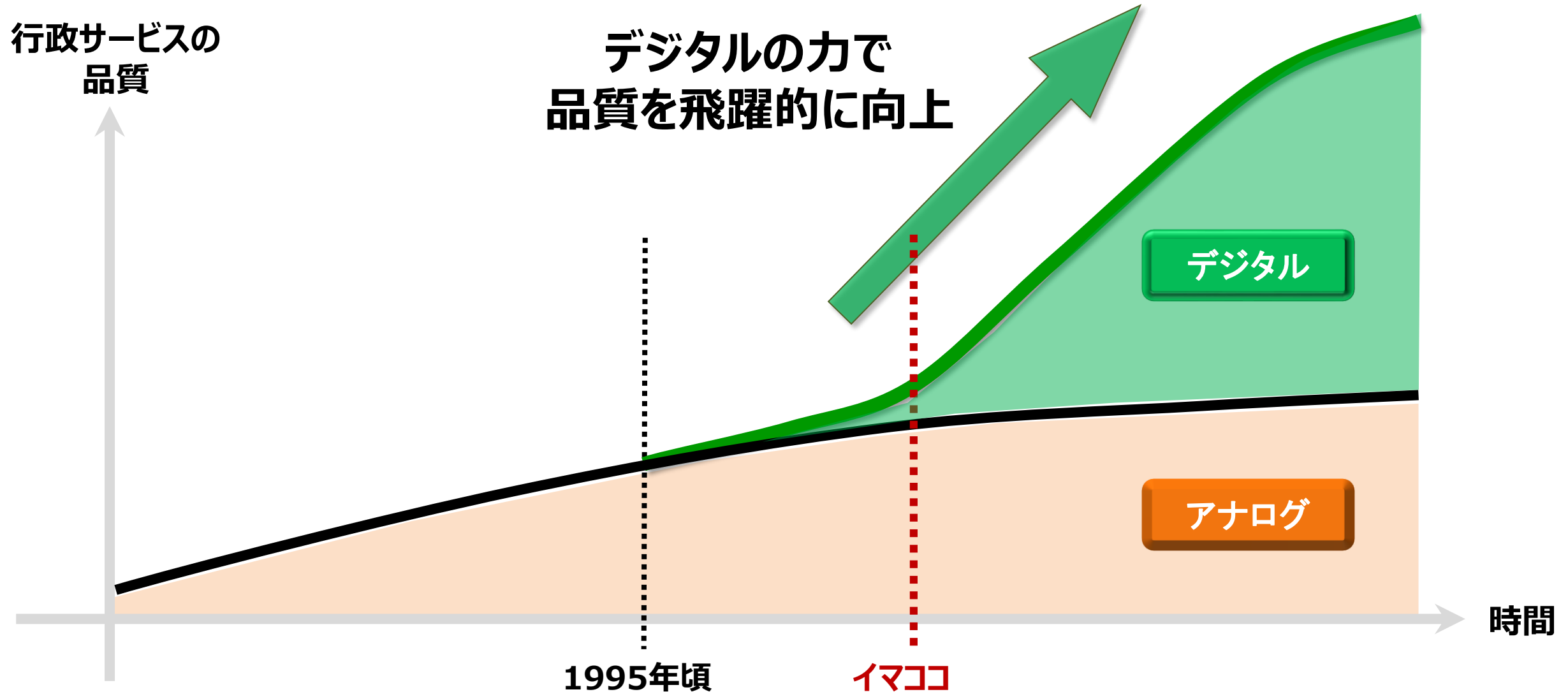
インフラ



くらし・経済



- アナログのサービスに**品質を上乘せ**する





東京都は

“品質の高いデジタルサービス”

を提供できているのか

- 海外と比較しても、デジタル化された行政手続の**利用率・満足度が低い**

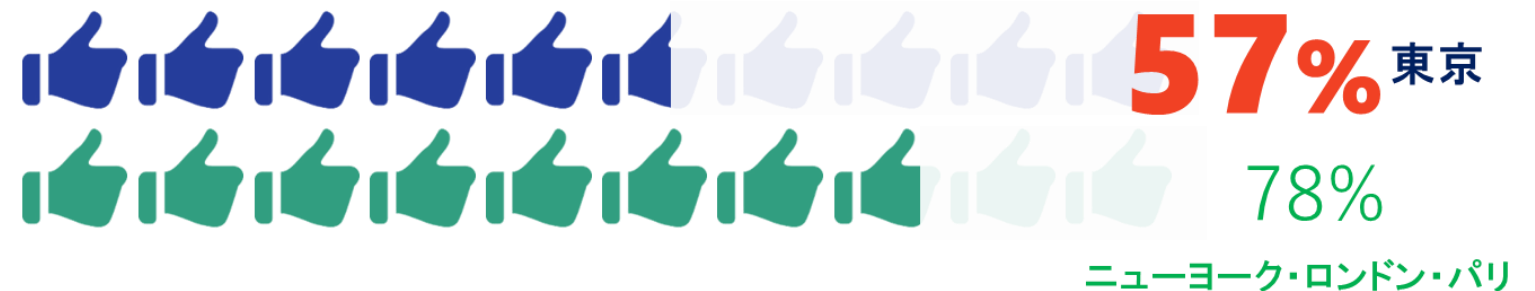
インターネット利用率
(プライベート)



デジタル化された行政手続の
利用率 (税金関係)

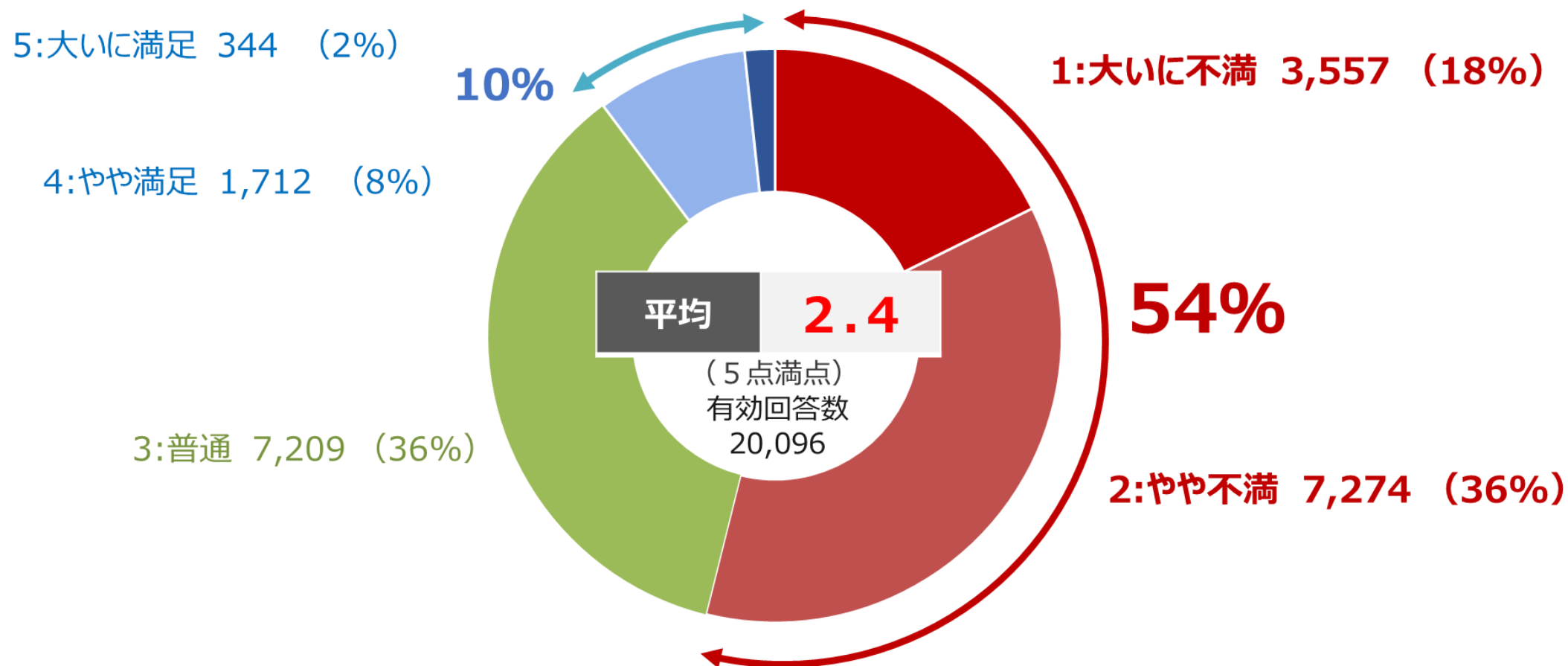


デジタル化された行政手続の
利用者満足度 (税金関係)



- ※調査概要
- 東京都、ニューヨーク、ロンドン、パリ在住の10代～50代 (各都市約300名) を対象にWebアンケートを実施 (R2年12月24日～翌1月4日)
 - 総回収サンプル: 1,334

- 都職員の半数以上が**デジタル環境に不満**と回答



※調査概要

- TAIMS* (東京都高度情報化推進システム) 等個人メールアドレスを付与された53,162人を対象に庁内ネットワークで調査を実施(R2年11月5日~18日)
※水道局は2020年11月6日から19日まで ※水道局のTS-NETを含む
- 回答者数 | 20,096人 (回答率37.8%)

B) 課題認識 (都民視点から見た事例①)

● メニューやレイアウトなど“見た目”がバラバラ



東京都デジタルサービス局
Bureau of Digital Services

背景 黒 白 通常
English

検索

東京デジタルファースト推進計画

24時間365日手続きが可能に！
交通費や郵送料も不要

申請画面で入力漏れを防止！
重複する情報は1度の入力で

受理や審査状況が見える化！
処理の効率化でスピードアップ

非接触・非対面を可能とすることで、行政窓口の混雑を緩和し、
新型コロナウイルス感染症等の感染リスクの低減にも寄与

新型コロナウイルス感染症に関する取組

> 東京版新型コロナ見守りサービス (都立施設) / 東京版新型コロナ見守りサービス (都立施設) のよくあるご質問



English 文字サイズ・色合い変更
サイトマップ 都庁総合トップページ

東京都産業労働局

検索

観光

中小企業支援 ▶

観光 ▶

農林水産 ▶

雇用就業 ▶

▶ 【注意】「感染拡大防止協力金」に係る架空請求にお気を付けくだ



背景色変更 白 黒 通常
文字サイズ 小 中 大
English

東京都財務局
Bureau of Finance

検索

最近の報道発表 ▶ 報道発表一覧

2021年10月15日
「東京グリーンボンド(機関投資家向け)」発行条件の決定について **NEW**

2021年10月11日
「東京グリーンボンド(外貨)」の発行について **NEW**

2021年10月4日
令和3年度9月補正予算(案)(追加分その2)について **NEW**

2021年9月28日
令和3年度9月補正予算(案)(追加分)について **NEW**

2021年9月22日
令和3年東京都基準地価格の概要

最近のお知らせ ▶ お知らせの一覧

● 申請 (システム) 毎に“ログインID”がバラバラ



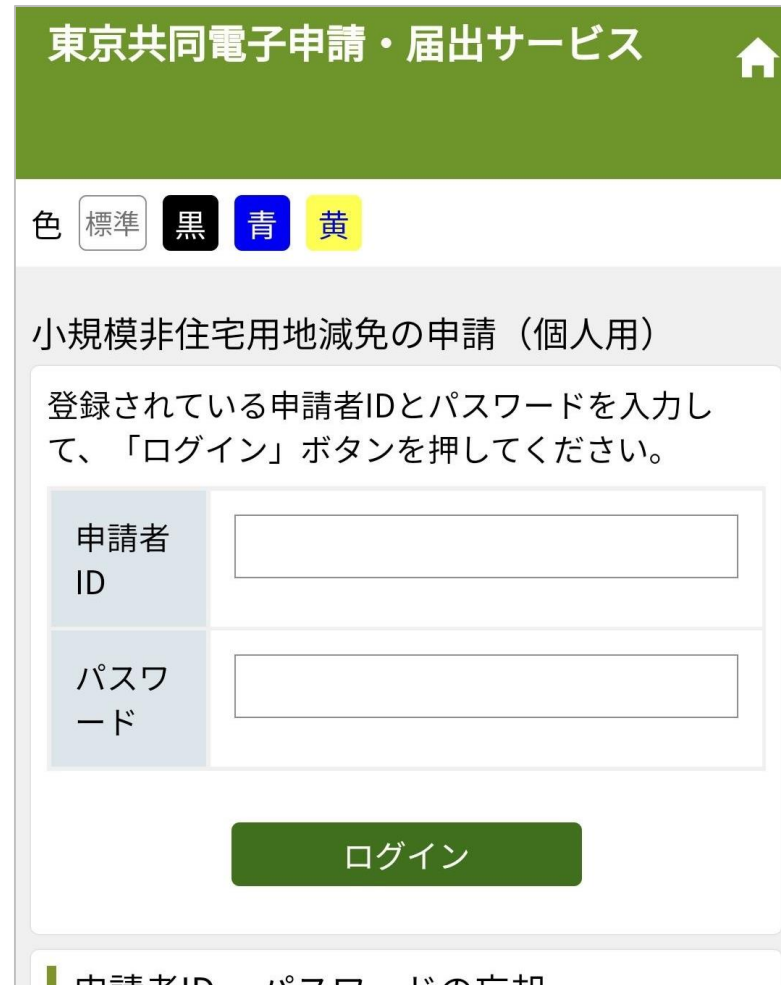
東京都

ログイン画面

ユーザーID 必須

パスワード 必須

ユーザーIDは、仮アカウント作成時にご登録されたIDになります。



東京共同電子申請・届出サービス

色 標準 黒 青 黄

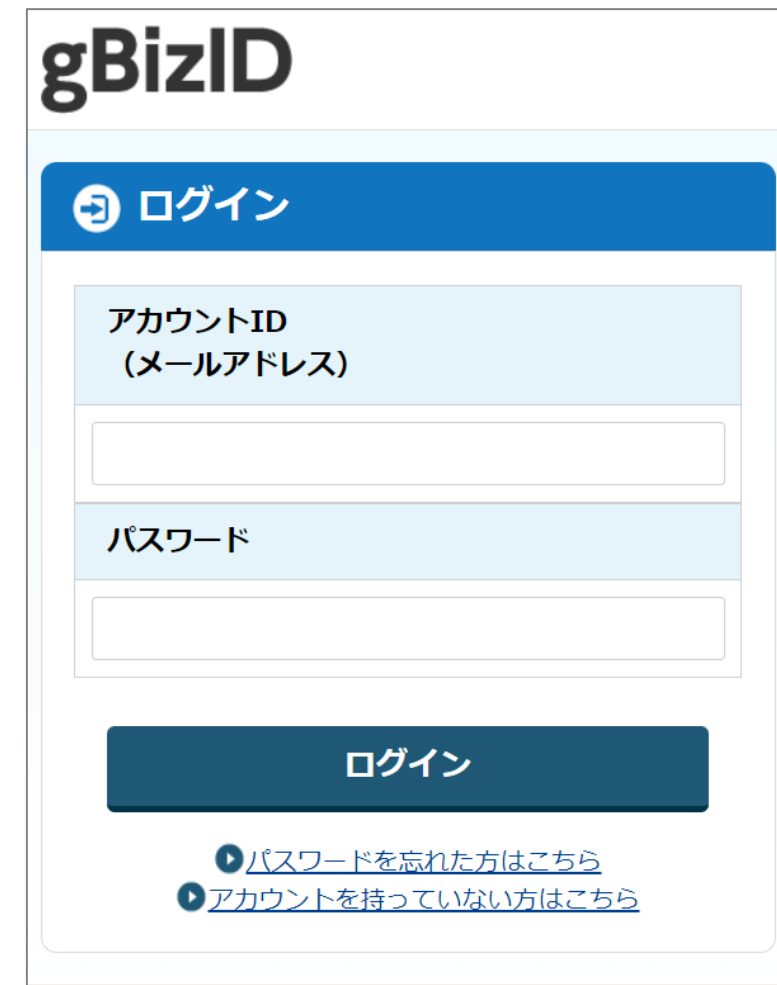
小規模非住宅用地減免の申請 (個人用)

登録されている申請者IDとパスワードを入力して、「ログイン」ボタンを押してください。

申請者ID

パスワード

ログイン



gBizID

ログイン

アカウントID
(メールアドレス)

パスワード

ログイン

[パスワードを忘れた方はこちら](#)

[アカウントを持っていない方はこちら](#)

※ (東京都) 感染拡大防止協力金サイト

- 都サービス全体でワンスオンリー・コネクテッドワンストップではなく、各システムにバラバラに入力させられる



東京都

飲食店等を対象

営業時間短縮等に係る
感染拡大防止協力金
のご案内

STOP! COVID-19

中小事業者向け

マイページ

オンライン申請はこちら



東京共同電子申請・届出サービス
東京都

申請・手続情報 | はじめて利用する方

色 標準 黒 青 黄

RSS (新着情報)

📧 共通情報

- ・手続き完了後の申請書データの保存期間変更について
- ・システムメンテナンスのお知らせ (11月10日 (水) 21:00~11月11日 (木) 8:00)
- ・電子申請サービスヘルプデスクのメール受付終了について
- ・電子申請サービスが正しく表示されない場合の対処方法について
- ・電子申請をご利用いただくために必要なWebブラウザの設定方法について

📌 お知らせ
お知らせはありません。

🔍 キーワード検索

検索

あ 五十音検索

検索



jGrants ログイン

ネットでいつでも！
補助金申請

応募から、採択後の手続きまで完結。
国や自治体の補助金が、誰でも簡単に申請できます。

補助金を探す

24時間受け付けてます！

B) 課題認識 (都民視点から見た事例④)

● 提供者視点のサービスで、“情報へのアクセス”がバラバラ

東京都

新型コロナ

支援ナビ

必要な人に必要な情報を

基本的対策徹底期間における
都立施設の休館状況等



飲食店を対象

営業時間短縮等に係る
感染拡大防止
協力金

大規模施設を対象

休業要請等を行う
大規模施設に対する
協力金

飲食店以外の
中小企業等を対象

休業の協力依頼を行う
中小企業等に対する
支援金

【東京都新型コロナ】
ご質問にチャットボットが
お答えします

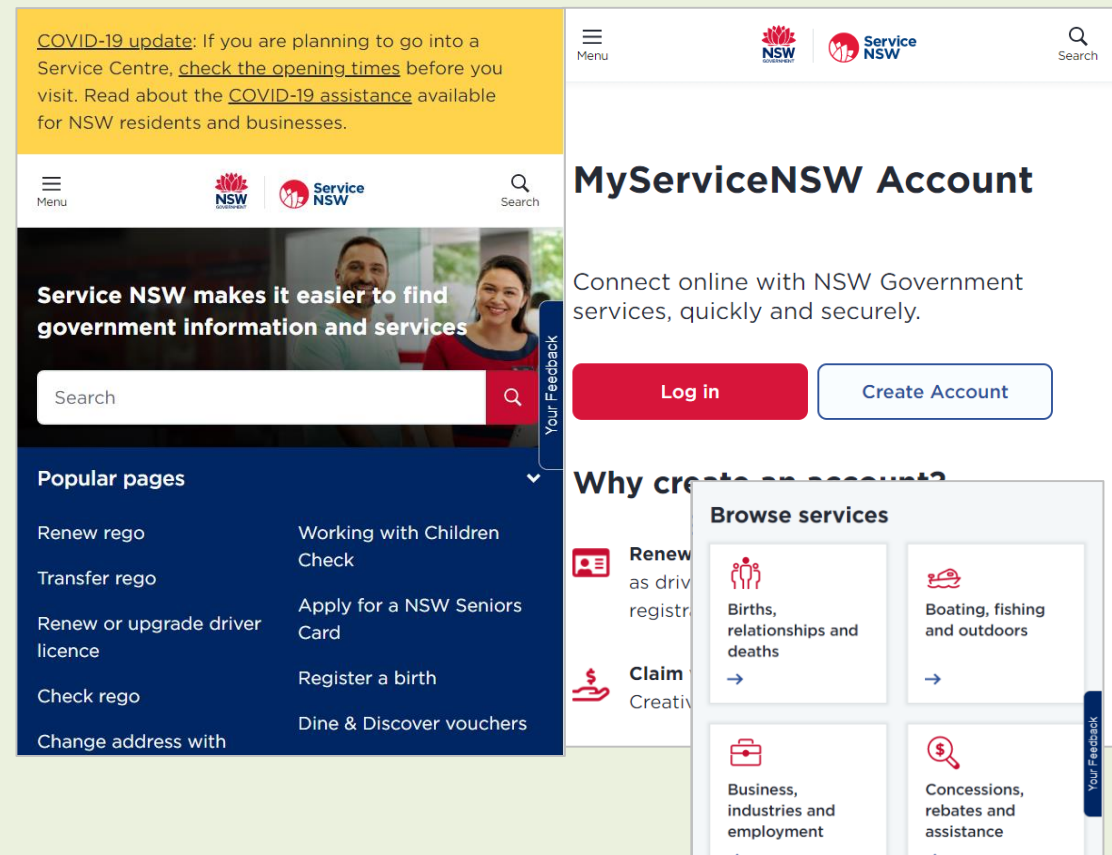


知事部局及び東京消防庁			
局名	電話 (広報担当)	主な事業	局の紹介
政策企画局	03-5388-2166	都の行財政の基本的な計画及び総合調整、重要な施策の企画立案、報道機関との連絡調整、都市外交の推進、成長戦略の推進	局の概要
	長期戦略 / 2020年に向けた実行プラン / 国・自治体との連携 / 全国各地との共存共栄 / 都市外交 / 国際金融都市特区・外国企業誘致		
都民安全推進本部	03-5388-2258	都民の安全安心・治安改善、交通安全、若年支援に係る総合的な施策の推進	局の概要
	都民安全・治安対策 / 交通安全対策 / 若年支援		
デジタルサービス局	03-5388-0056	各局等のDX推進支援、デジタルに関する全庁統括、デジタル人材の結集と都庁職員の育成	局の概要
	スマート東京の推進 / TOKYO Data Highway / 官民連携		

✓ Topページに個人向け・事業者向けの個々の施策が混在

✓ 組織を起点とした検索

住民が必要とする情報にアクセスしやすく表示 (例：オーストラリアNSW州政府)



The screenshot shows the NSW Government website interface. At the top, there's a yellow banner with a COVID-19 update. Below it is the 'MyServiceNSW Account' section with 'Log in' and 'Create Account' buttons. A 'Popular pages' menu lists various services like 'Renew rego', 'Transfer rego', etc. A 'Browse services' dropdown menu is also visible, listing categories like 'Births, relationships and deaths', 'Boating, fishing and outdoors', etc.

● 職員目線から見た課題

✓ システム間の情報連携ができておらず、効率化が図れていない

例) 産業労働局のコロナ関連給付金において、審査手続上、福祉保健局の営業許可の届出状況を確認するため、その都度CSVファイルを手渡し

✓ データのキーが揃っていないため名寄せができない

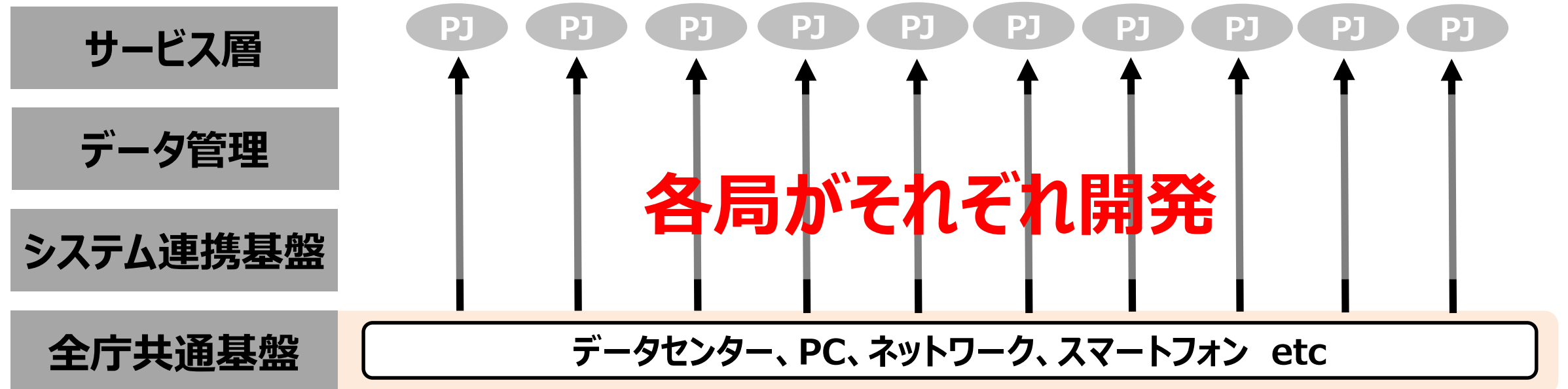
例) 福祉保健局の営業許可台帳の事業所のうち、総務局所管のコロナ徹底点検済事業所の割合が把握できていない。

✓ 申請等により集まったデータについて、横断的な分析ができていない（データを活用できていない。）

✓ 各局毎に開発することで、現場にデジタルサービス開発経験者が少ないあるいはいない為、設計書のレビューや受入テストが正しくできていない など

- 各局がバラバラにデジタルサービスを開発・運用しており、**目指すサービス水準や品質管理が一定でないこと。**

現状：各局がバラバラにサービスを開発



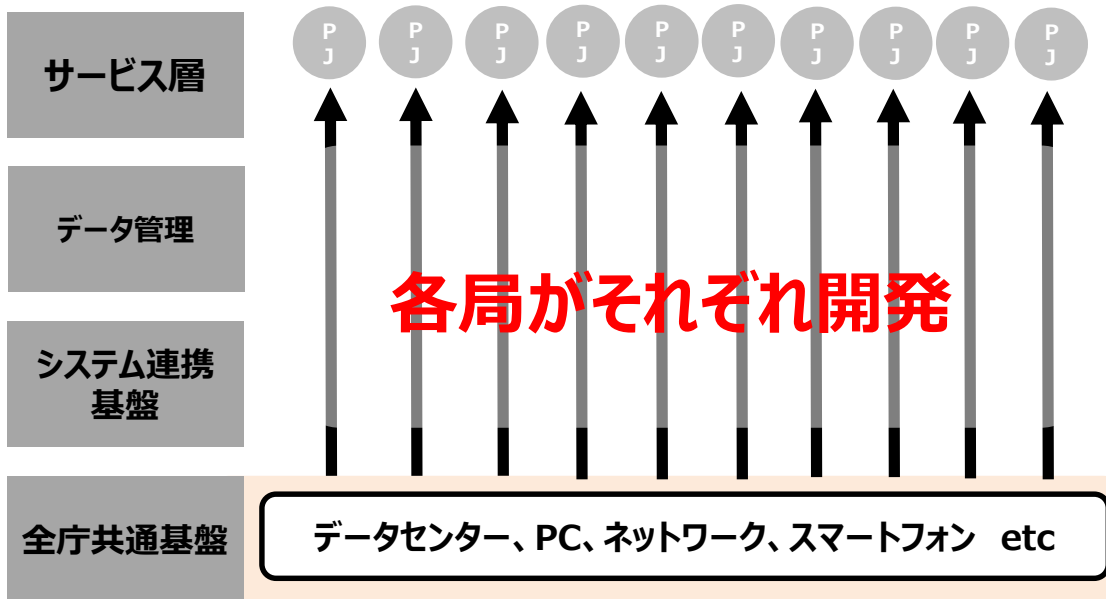
システム間連携等

各システムに、**ユーザーが共通する情報を何度も入力**

C) 目指す将来像 (サービスの質の均一化)

- システム連携基盤やデータ管理層等での**共通化・標準化を図っていく**ことで、サービスの質の均一化を目指す

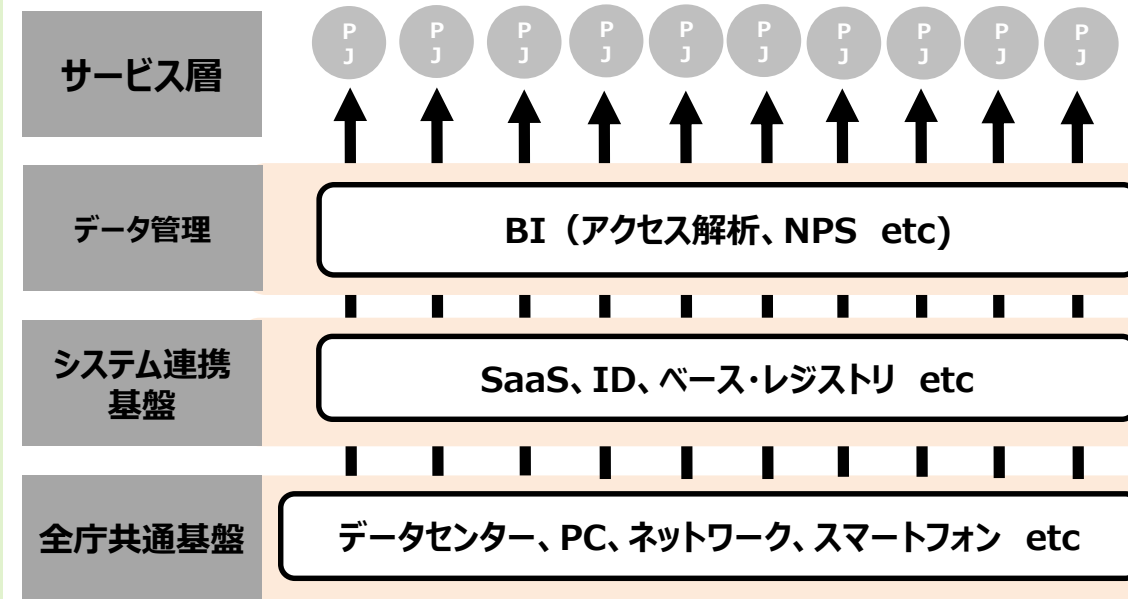
現状：各局がバラバラにサービスを開発



システム間連携等

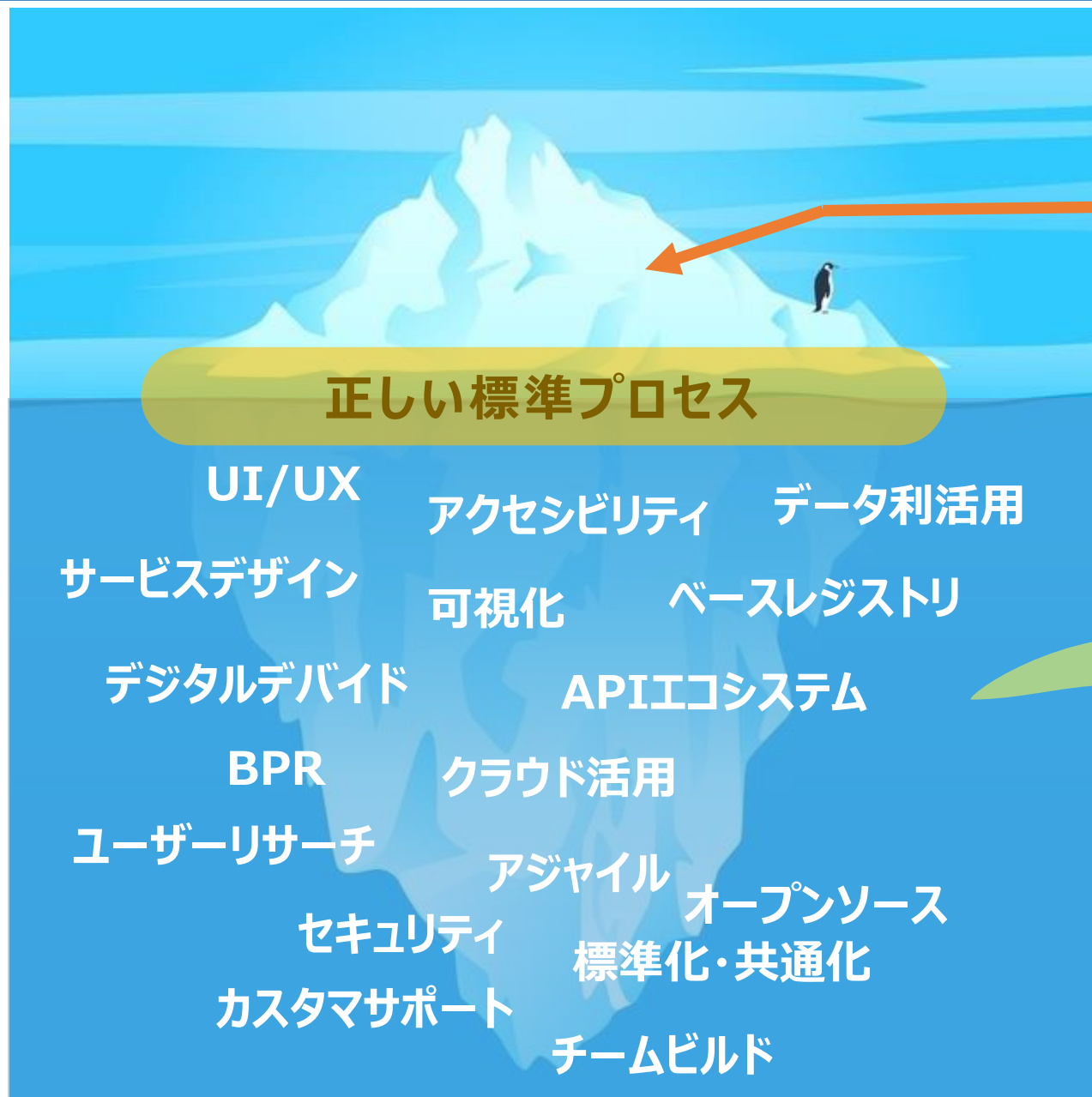
各システムに、ユーザーが共通する情報を何度も入力

将来像：サービス開発の共通化・標準化



システム間連携等

一度登録された情報は、システム側が、他の手続きでも引用



QOS (Quality of Service)
の高いデジタルサービス

品質を確保するために
必ず守るべき事項

「デジタルサービスガイドライン」

- 質の高いデジタルサービスの提供を目指してルールを作り、共有する

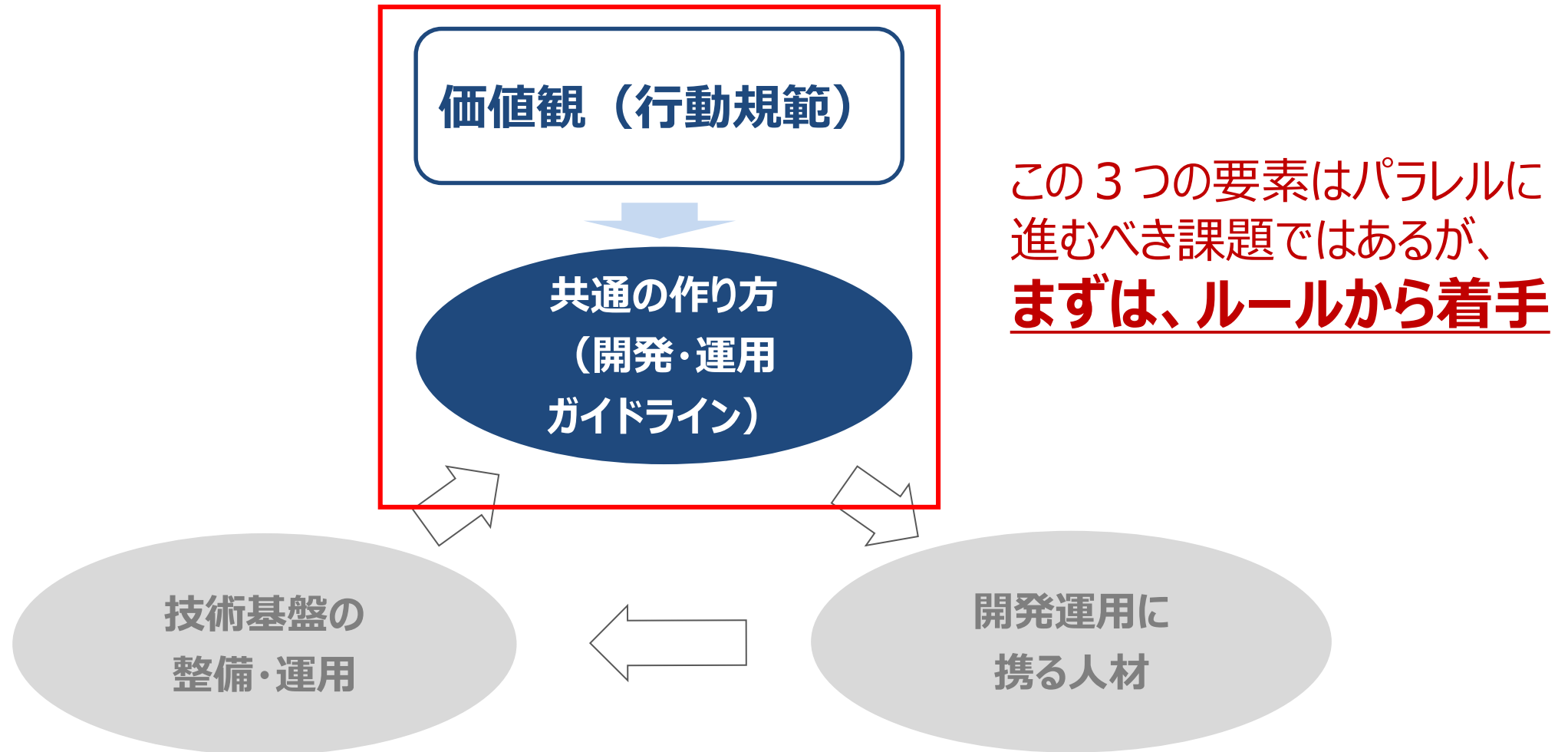
デジタル化を量的に進めるだけでなく、**質の向上が重要**

“価値観”と**“作り方”**の2つの共有を推進

都民誰もが**“使いやすく、満足度の高い”**デジタルサービスを実現

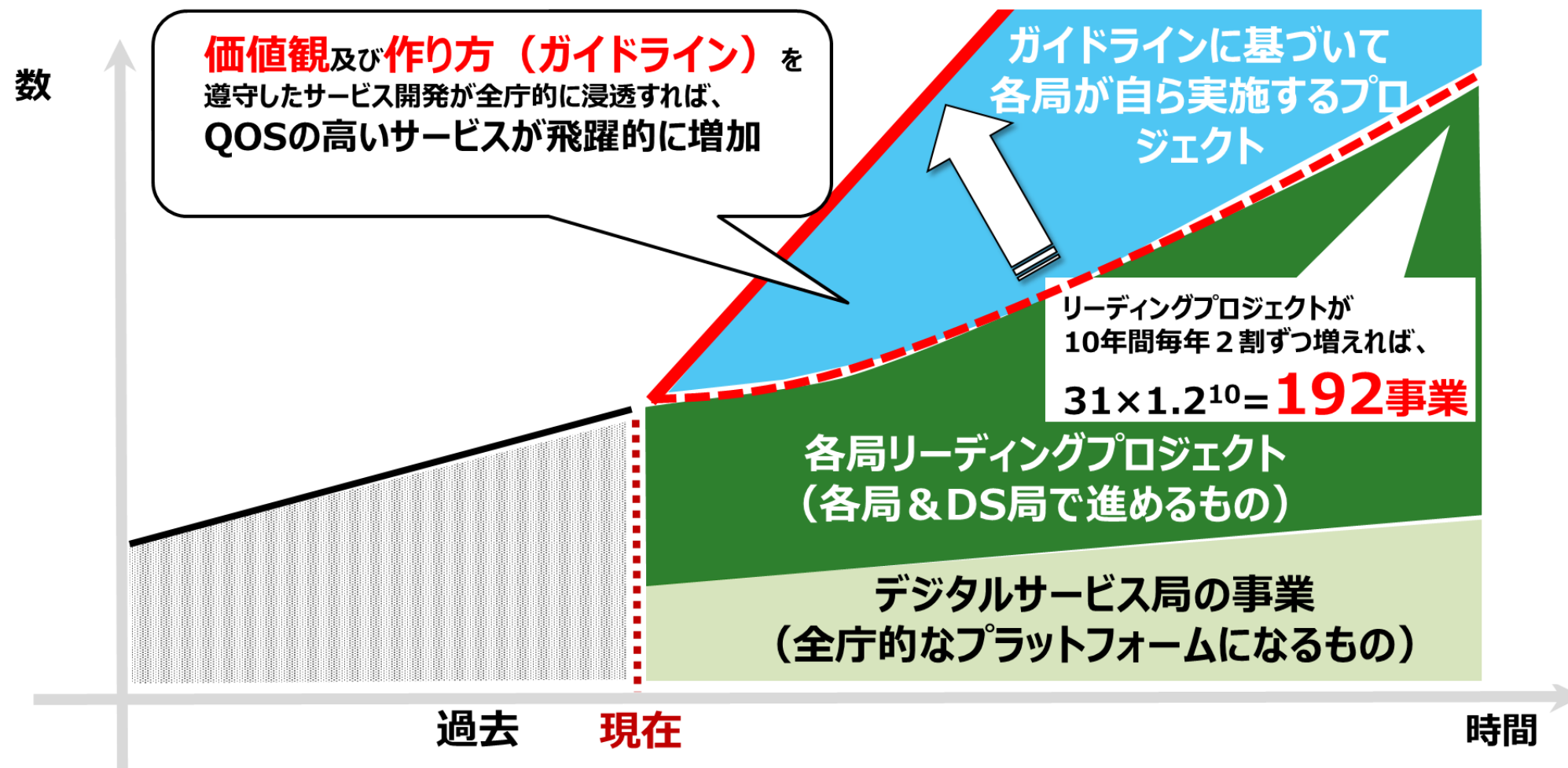
C) 目指す将来像（検討の方向性）

- 将来像を実現するためには、**基盤整備**にあわせ、それを使うための**ルール**（価値観と作り方）と、ルール守り実行・運用できる**人材**が必要



C) 目指す将来像（ガバナンスのあり方）

- 事業によって適したガバナンス方法により、QOSの向上を実現



行動指針

東京デジタルサービス行動規範（仮称）

価値観

10か条



標準プロセス

要件
定義

設計

開発

テスト

リリース
(レビュー)

改修

廃棄

技術
ガイドライン

東京デジタルサービスガイドライン（仮称）

各プロセスチェック時に確認すべき技術テーマを規定

技術テーマ別の例) UI/UX、オープンデータ、オープン・ソフトウェア、データ利活用、セキュリティ、ユーザーテスト

D) 行動指針の策定（推進体制）

- 行動指針の策定にあたっては、「**東京デジタルサービス会議**」を設置
- ガイドラインの策定にあたっては、上記会議体の傘下に**民間企業CTO（チーフ・テクノロジー・オフィサー）**などの参加を得た**ワーキンググループ**を設置

役割

- ✓ 行動規範（仮称）案の策定
- ✓ ガイドラインWG設置／メンバーの推薦
- ✓ 標準プロセスの策定
- ✓ ガイドライン案の承認

- ✓ ガイドライン案の検討・原案作成
- ✓ ガイドラインの改訂
- ✓ ガイドラインの監査／レビュー・勧告





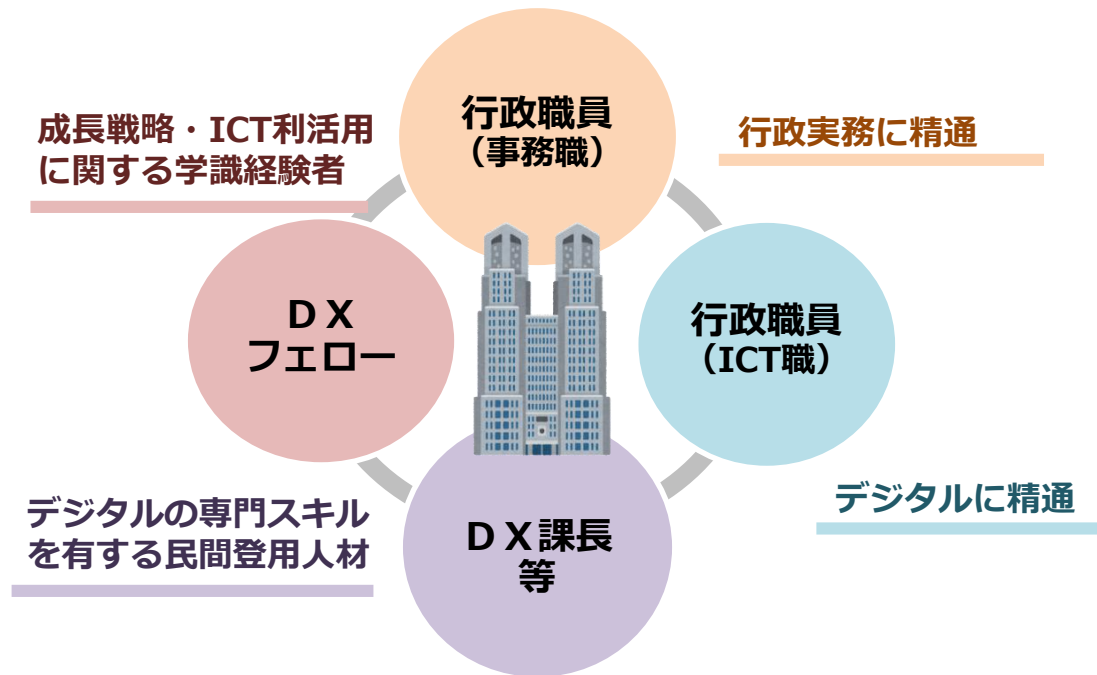
行動指針の策定 >

行動規範 code of conduct

D) – 1 行動規範（価値観の共有）

- これからのデジタルサービスの開発・運用は、行政職員のみならず、外部からの専門人材などが協力して行っていくこととなることから、共通の価値観が必要 ⇒ **職員が共有すべき価値観を行動規範として規定**
- 本指針を公表することにより、**都民等のチェック基準としても活用**

これからの開発・運用体制



共通の価値観の例 (The UK government's design principles)

- 1. Start with user needs**
ユーザーのニーズから始める。
- 2. Do less**
政府がなすべきことの最小限に抑える。
- 3. Design with data**
データを使用したデザインとする。
- 4. Do the hard work to make it simple**
シンプルにしていくことに注力します。
- 5. Iterate. Then iterate again**
繰り返し、繰り返し実施する。
- 6. This is for everyone**
皆のためにやります。
- 7. Understand context**
背景や事情、周辺環境を理解する。
- 8. Build digital services, not websites**
Webサイトではなく、デジタルサービスを構築する。
- 9. Be consistent, not uniform**
一貫性を保つべき。であるが、単なる統一ではない。
- 10. Make things open: it makes things better**
オープンにする。オープンは物事をより良くする。

D) – 1 行動規範の策定（東京都案）

#	行動規範	説明	関連施策ワード
1	顧客視点でデザインしよう	都民のための行政サービスを常に心がけ、都民の声を聞き、都民の目線でデジタルサービスを構築・提供する。	ユーザー指向、UI/UX
2	シンプルなサービスを心がけよう	標準化・共通化により本当に必要なものからシンプルにデジタルサービスを作っていくことを心掛ける。	クラウド・バイ・デフォルト
3	誰ひとり取り残さないようにしよう	誰もが必要なサービスを楽しむことができるよう、多様性に配慮し、誰ひとり取り残さないデジタル社会を作る。	デジタルデバイド是正、アクセシビリティ
4	資源（データ）を最大限に活用しよう	都民の資産であるデータを最大限に活用することで、より良いデジタル社会を実現する。	EBPM、データ利活用
5	安全安心なデジタル社会をつくろう	誰もが安全安心に利用できるデジタル化を実現し、信頼できるデジタル社会を構築する。	情報セキュリティ、BCP
6	オール東京一丸となって取り組もう	都庁内はもちろん、都民に身近なサービスを提供する区市町村、デジタル社会形成の施策を推進する国と一丸になって、デジタルサービスを構築する。	デジタルガバメント、区市町村支援、GovCloud
7	都政の見える化をしよう	都政の活動が見える化することにより、広く都民にも活動を知ってもらうことで、より良い都政を実現する。	オープンガバメント、透明性
8	都民と共創しよう	職員だけで考えるのではなく、都民の方々と共創することで、より良いデジタル社会を構築する。	オープンソース、シビックテック、エコシステム、イノベーション
9	つねに見直し、チャレンジし続けよう	前例に囚われるのではなく、新たな価値創造を目指してチャレンジを続け、継続的な改善を促進する。	オープン、アジャイル・改善
10	ともに学びつづけよう	関係者全員が学びを続けることで、より良いデジタルサービスを構築・提供する。	

#	DO
1	顧客視点でデザインしよう
2	シンプルなサービスを心がけよう
3	誰ひとり取り残さないようにしよう
4	資源（データ）を最大限に活用しよう
5	安全安心なデジタル社会をつくろう
6	オール東京一丸となって取り組もう
7	都政の見える化をしよう
8	都民と共創しよう
9	つねに見直し、チャレンジし続けよう
10	ともに学びつづけよう

#	DON'T
1	行政視点でデザインしよう
2	沢山作りこんで使いやすいサービスを心がけよう
3	特定のユーザーをターゲットに優先しよう
4	データはしっかり保管し、触らないようにしよう
5	危険で不安なデジタル社会をつくろう
6	東京のことは東京都だけで取り組もう
7	都政はクローズドに見せずにいこう
8	職員だけで作っていこう
9	前任者のやり方は変えずに踏襲しよう
10	専門的なことは専門家に任せよう

- 他団体の事例等を参考に、以下プロセスにて事務局案を作成
 1. 部内メンバー意見出し（当プロジェクトに関与するデジタルサービス局職員総勢約20名により24の案）
 2. 意見集約（ワークショップによりグルーピングし、7つに集約）
 3. 都や国の政策、他事例（他自治体、海外）を調査（103の規範を抽出）
 4. 意見集約（ワークショップにより3つを追加、計10つに集約した）

本日の論点 1

- **他に盛り込むべき観点はあるか**

⇒ システム開発者にも求められる社会的な視点 など

※ 次回、民間事例等を収集のうえ、行動規範の決定プロセスと、職員への浸透策について、議論の予定



自由討議

(岩崎構成員の意見は事前に聴取した内容を事務局から報告)

行動指針の策定 >

標準プロセス／技術Guideline

D) - 2 技術ガイドライン

- 行動理念の実践にあたって必要な**技術的な基準（アクセシビリティ等）を規定・共有**
⇒ 開発・運用に携る職員や受託事業者が、本ガイドラインを遵守することで**あらゆるデジタルサービスの品質の均一化と維持向上を推進**
- 策定後も、実作業の中で本基準を検証・改善しつつ、新技術等にも対応していく

ガイドラインのライフサイクルイメージ



PDCAを繰り返すことで、**品質の再現性を確保**するとともに、ガイドラインの成長を促進

- ガイドライン策定にあたっては、デジタルサービス開発における基本的 **4つの視点**を設定

①

正しい設計図をつくる

②

正しく施工会社を選ぶ

③

間違っているものはリリースしない

④

しっかりレビューして学ぶ

この視点を基に、優先的に取り組む技術テーマを選定したい

- 基本的 4 つの視点を基に、以下ステップで検討

Step1. 標準プロセスの検討

システムのライフサイクルの標準化

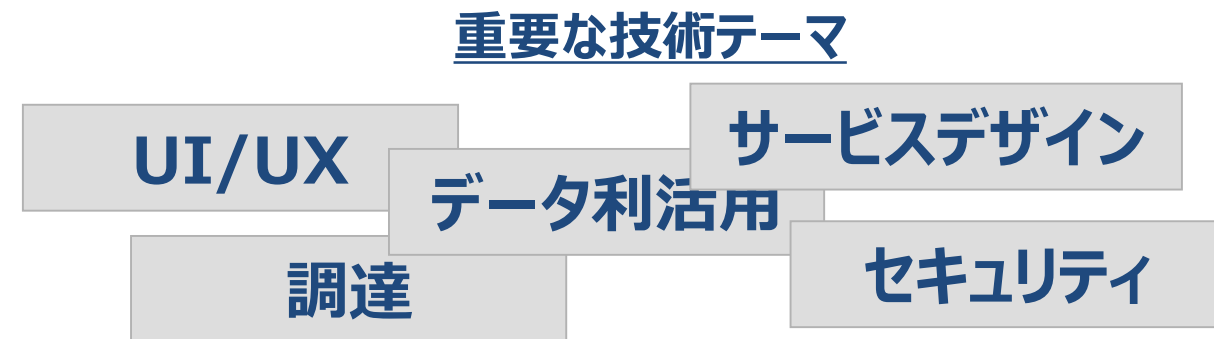
⇒ 品質の再現性を確保するためのプロセスの見える化



Step2. 重要な技術テーマの整理

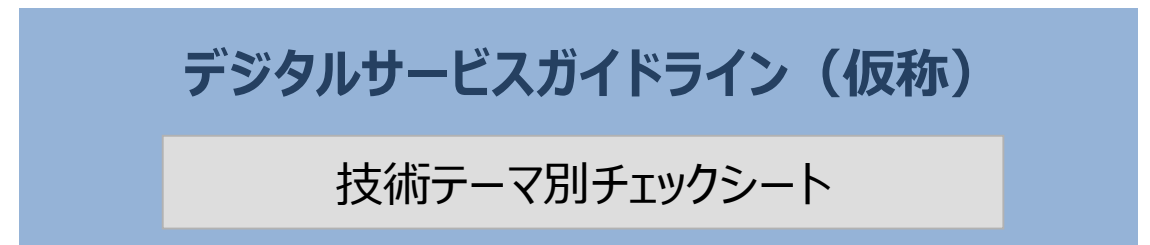
サービスの質を高めるための重要な技術テーマの抽出

⇒ 技術テーマ別ガイドライン策定の優先順位付け



Step3. プロセス別チェックシートの検討

プロセスに応じて、必ず守るべき事項（技術テーマ）のチェックシート化



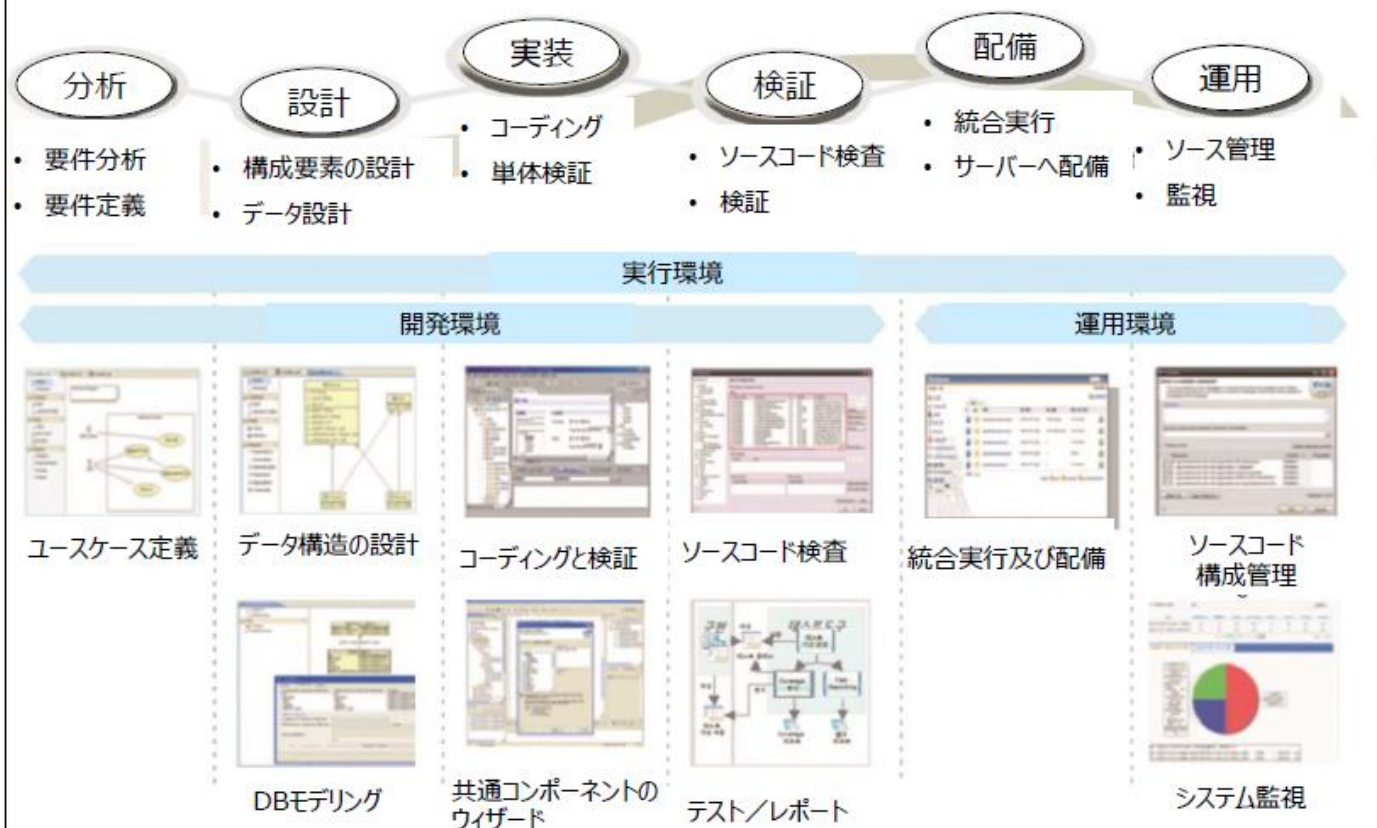
● 標準プロセスの策定、技術ガイドラインの各国事例を比較

	標準プロセス事例	技術ガイドライン事例		
	韓国	米国	英国	オーストラリア
推進組織	行政安全部（MOIS）	U.S. Digital Service	Government Digital Service	Digital Transformation Agency
事例	電子政府2020基本計画にて行政サービスの開発にあたって、「分析～設計～実装～検証～配備～運用」の6工程を推奨している	Digital Services Playbook 13箇条がピックアップされており、それぞれの項目にチェックリストが整備されている	Service Manualとしてアクセシビリティやアジャイルデリバリーなどの手法が整備されている	Build and improve servicesとしてサービスデザインとデリバリー、ユーザリサーチ、チーム管理の大分類で手法が整備されている

■ 電子政府2020基本計画

アジャイル型開発プロジェクトの調達方法

【図表・韓14】アジャイル型開発プロジェクトの調達方法



行政サービスの開発にあたって、
「分析～設計～実装～検証～配備～運用」6工程を推奨

■ ガイドライン : DigitalServicesPlaybook

1. Understand what people need
2. Address the whole experience, from start to finish
3. Make it simple and intuitive
4. Build the service using agile and iterative practices
5. Structure budgets and contracts to support delivery
6. Assign one leader and hold that person accountable
7. Bring in experienced teams
8. Choose a modern technology stack
9. Deploy in a flexible hosting environment
10. Automate testing and deployments
11. Manage security and privacy through reusable processes
12. Use data to drive decisions
13. Default to open

たとえば、Play4（アジャイル開発）は以下9項目のチェックリストからなる

1. プロジェクト開始から3ヶ月以内にできる限り早くユーザーニーズを解決するための機能している実用最小限の製品（minimum viable product : MVP）を発送する。必要ならば「ベータ」もしくは「テスト」期間を使用する
2. 操作性テストを頻繁に行い、サービスがどの程度機能しているか確認し、また改善が必要な箇所を特定する
3. ローンチミーティング、戦略ルーム（warrooms）、チームのチャットツールなどの技術を用いてサービスを開発人員間の緊密なコミュニケーションを確保する
4. デリバリーチームを小規模かつ重点的に活動させる。チームをビジネスオーナーから分離するような組織的階層をできる限り減らす
5. 毎月複数回特徴や改善点をリリースする
6. 「機能バックログ」や「バグバックログ」などとも呼ばれる機能やバグの優先リストを作成する
7. ソースコードのバージョン管理システムを使用する
8. プロジェクトチーム全体にイシュートラッカーとバージョン管理システムへのアクセスを可能とする
9. 品質保証のためにコードレビューを行う

■ ガイドライン：Service Manual

1. Accessibility and assisted digital

アクセシビリティ、支援されたデジタル、ユーザーサポートなど、人々があなたのサービスを利用するのを助け、奨励する。

2. Agile delivery

アジャイルな方法で作業する方法：原則、ツール、ガバナンス。

3. Design

サービスの命名、構造化、スコープ設定、プロトタイピング、デザインパターンの使用、デザイントレーニング。

4. Measuring success

データを使用してサービスを改善する方法：測定、レポート、分析ツールおよび手法。

5. Service assessments and applying the Service Standard

新しいサービス標準を適用する方法、サービス評価が必要かどうかを確認する方法、GOV.UKでサービスを取得する方法、およびサービス評価者になる方法。

6. Technology

テクノロジーの選択、開発、統合、ホスティング、テスト、セキュリティ、およびメンテナンス。

7. The team

サービスチームの管理：役割、必要な人材の採用、請負業者との協力、トレーニング。

8. User research

ユーザーのニーズを理解する：調査の計画、セッションの準備、調査結果の共有と分析。

■ ガイドライン： Build and improve services

1. Service design and delivery process

- Getting started with the service design and delivery process 概要
- Own the whole user experience ユーザー体験全体を持つ
- Discovery stage: exploring the problem 発見段階：課題の探索
- Alpha stage: testing hypotheses アルファステージ：テスト仮説
- Beta stage: building and testing the service ベータステージ：サービスの構築とテスト
- Live stage: improving the service ライブステージ：サービスの改善

2. User research

- Understanding users and their needs ユーザとそのニーズを理解する
- Getting support for user research ユーザ調査のサポートを受ける
- Involve the team in research 研究に参加させる
- Planning user research ユーザ調査の計画
- Use existing research and data 既存の調査とデータを使用する
- How user research changes during design and delivery 設計およびデリバリー中にユーザ調査がどのように変化するか
- Find user research participants ユーザ調査の参加者を探す
- Interviewing users ユーザへのインタビュー
- Consent forms for user research ユーザ調査のための同意書
- Paying incentives for user research インセンティブ支払い
- Analysing user research ユーザ調査の分析
- Understanding diversity 多様性を理解する

3. Managing teams

- Understanding digital roles デジタルの役割を理解
- Multidisciplinary teams 学際的なチーム
- Building core roles in a team コアな役割を構築
- How to upskill a team チームがスキルアップする方法

<https://www.dta.gov.au/help-and-advice/about-digital-service-standard>

- 先行する諸外国のガイドライン策定状況や、国のデジタルガバメントに関する提言から、技術テーマ候補をピックアップ

	指針／playbook	主なポイント（キーワード）
日本政府	デジタルガバメント実現のためのグランドデザイン	ユーザ体験志向、データファースト、政府情報システムのクラウド化・共通部品化、政府のスマート化
米国	Digital Services Playbook	顧客ニーズ、ユーザ体験志向、シンプルで直感的、アジャイル開発、予算と契約、説明責任、経験豊富なチーム、モダンな技術の選択、柔軟なホスティング環境、テスト・デプロイ自動化、セキュリティ・プライバシー、データに基づく意思決定、情報をオープンに
英国	Service Manual	アクセシビリティと支援されたデジタルサービス、アジャイルデリバリー、デザイン、成功の測定、サービス評価とサービス標準の適用、テクノロジー、チーム、ユーザーリサーチ
オーストラリア	Build and improve services	サービスデザインとデリバリープロセス、ユーザーリサーチ、チームマネジメント

- 東京都の課題の状況や、先行する海外ガイドライン策定状況を踏まえ、**WGで優先して取り組むべき技術テーマ**を選定

課題等

✓ デジタルサービスに都民目線が欠如
✓ 諸外国の事例から、評価の高い行政サービスを提供している組織はサービスデザイン、顧客視点、デザイン思考を重視

✓ アクセシビリティ確保に関する課題が顕在化

✓ 都民に向けワンズオンリー、ワンストップが実現できていない
✓ 国の包括的データ戦略の進捗をふまえつつ、都としてもユースケースを創出
✓ デジタルシフトを加速する中で、早期に整備が必要

✓ 今後、手続のデジタル化を進め都が預かる都民のデータが増えるなかで、早期に整備が必要

WG
テーマ

UI / UX

データ利活用

セキュリティ

本日の論点 2

- **標準プロセスをどういったバリエーションで整備すべきか**

⇒ ウォーターフォール型開発、完全アジャイル型開発、部分アジャイル型、アジャイル・ウォーターフォール複合型など

- **どのような技術テーマから優先して取り組むべきか**

⇒ 前スライドの東京都案を以外の観点で優先すべきテーマ

- **WGメンバーの推薦**

⇒ 優先すべきテーマに応じたWGメンバーの推薦



自由討議